

■森田たま 随筆家。デビュー即沈黙後20年、執筆再開するや女性読者を魅了して"現代の清少納言"、最後は参議院議員に。

もりたたま

日清戦争始 1894 = 北海道札幌で、秋田出身の運送会社社長村岡治右衛門の次女に生まれる。母はよしの。1姉1妹。

日比谷公園 1903 = 9歳：

日露戦争終 1905 = 11歳：

韓国反日暴動 1907 = 13歳：高等小学校2年で、庁立札幌高等女学校を受験し、合格するが、

伊藤博文暗殺 1909 = 15歳：1年間病臥することになり、中退。雑誌{少女世界}に投稿した文が認められ、上京。婿養子の夫迎えるも、性格合わず、

明治天皇没 1912 = 18歳：

大正政変 1913 = 19歳：\*森田草平に師事する。直ぐに{新潮}などに短編「片瀬まで」「うはさ」などを発表、北海道出身の女流作家第1号となった。また草平の紹介で漱石一門の作家と交友をもつ。

第一次大戦始 1914 = 20歳：自殺未遂ののち、一時札幌に帰郷。

民本主義 1916 = 22歳：慶大理財科学生森田七郎と知り合い、大恋愛の末、婿養子と別れて、結婚、しばらく文筆から遠ざかる。

本格政党内閣 1918 = 24歳：長女を出産。

原敬首相暗殺 1921 = 27歳：長男を出産。

関東大震災 1923 = 29歳：震災に遭遇し、夫の実家に近い大阪千里に疎開。

治安維持法 1925 = 31歳：東京に戻って、夫と森田書店を開くが、円本の攻勢に会って再び大阪へ。

金融恐慌 1927 = 33歳：この年の芥川竜之介の自殺に衝撃。

海軍軍縮条約 1930 = 36歳：

満州事変 1931 = 37歳：

五一五事件 1932 = 38歳：\*夫の実家没落の渦中、草平が来阪、急に思い立ち、随筆「着物・好色」を書いて{中央公論}掲載され、好評。上京し、以後随筆家となり、

二二六事件 1936 = 42歳：「もめん随筆」を出版して、ようやく経済的に余裕。

日中戦争始 1937 = 43歳：長編小説「石狩少女」、

健保+総動員 1938 = 44歳：「随筆きぬた」など、身近な題材を繊細な感性で描き、女性読者を魅了、"現代の清少納言"と称された。

第二次大戦始 1939 = 45歳：中央公論特派員として、中国諸都市に赴き、初めて陸軍軍人を知る。

大政翼賛会 1940 = 46歳：

日米開戦 1941 = 47歳：短編小説集「招かれぬ客」。札幌講演の際、谷川徹三・阿部知二と中谷宇吉郎を訪ねる。

創価学会換拳 1943 = 49歳：海軍報道班員として南方に派遣されるも、発病して帰国。長男が学徒出陣。

年金+総武装 1944 = 50歳：鎌倉に移住。

敗戦 1945 = 51歳：長男がボツダム中尉となって帰還。

新憲法施行 1947 = 53歳：失火で自宅全焼。

極東裁判決 1948 = 54歳：戦後もさまざまな随筆を出版。

独立回復 1951 = 57歳：

メデー事件 1952 = 58歳：東京青山に移住。

自衛隊発足 1954 = 60歳：アムステルダムでの国際ペン大会に日本代表として参加、ヨーロッパ諸国を回って帰国。

55年体制始 1955 = 61歳：日本エッセイストクラブ賞を受賞した。

なべ底不況 1957 = 63歳：

安保闘争 1960 = 66歳：

全国総合計画 1962 = 68歳：\*自民党から参議院に当選、

国語問題に取組み、きもの博物館設立に奔走、

大学紛争始 1965 = 72歳：

いざなぎ景気 1966 = 73歳：ヨーロッパ再訪し、帰国。

霞ヶ関に帰る 1968 = 74歳：任期満了で引退。勲三等宝冠章。

大阪万博 1970 = 76歳：没した。  
「森田たま随筆全集」全3巻がある。

「日本の女性」、インターネット、